

# 市報 やまぐち

CONTENTS  
主な内容

21世紀を担う青少年  
夢に駆ける！

2002 1/1 NO.1307

JANUARY

Communication Paper Yamaguchi



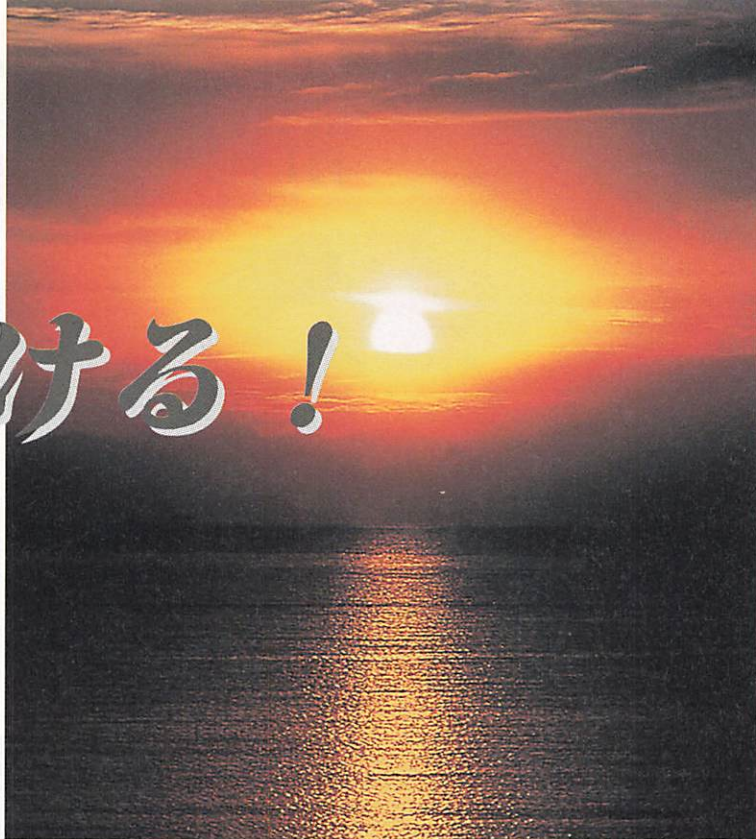


特集 21世紀を担う青少年

# 夢に駆ける!

1日に千里を駆けると言い伝えの残る中国・漢の時代の名馬「汗血馬(かんけつば)」のようにあふれんばかりのエネルギー、輝きを放つ青少年。いつの時代も、彼らの夢は、たのもしく、壮大です。

新春特集は、山口市の将来を担う青少年の夢や思いにスポットをあててみました。



記録が出せるのは、みんなの支えがあるから

はらだよしあき

原田良明くん (山口県鴻城高校3年生・小鯖)

寒風の中、競走馬のごとく疾走するのは、100メートルを10秒台で駆け抜ける原田良明くん。昨年の高校総体、国体の県代表選手です。全国大会では、惜しくも力を発揮できなかったものの、次の目標にむけて、部活動を引退した後も練習に熱が入ります。

2年生の時はけがに泣かされ「陸上を一度は辞めようと思った。全国大会出場は頭にありませんでした」と話す原田くんは、仲間の励ましでハードな練習を重ねていきます。3年生になり、社会人や大学生も参加する県レベルの大会で、高校生トップの6位入賞を果たします。「これまで勝てなかったライバルに勝てたのは自信になった」という原田くんの快進撃がここから始まりました。続くインターハイ県予選は、見事1位、中国大会でも自己新の10秒87をマークし全国大会の出場を決めます。

秋に行われた国体にも出場を果たすなど県内では文句なしの1番。そんななか、

「以前は陸上競技は一人でやるものと思っていました。が、けがをして、初めて一人でやるのではないと気づきました。」



寒風の中、新しい目標に向け、練習を重ねる原田くん

先生、友達、家族の支えがあったから続けてこれたし、記録も出せたと思います」と周囲への感謝も忘れません。

大学の進学が決まり、陸上を続けることに、「高いレベル、環境で、少しでも一流に近づくことができるよう、技術面はもちろん、自分の弱点である精神面を鍛えたい。当面の目標は、県記録(10秒52)を破ること」といいます。

将来は公務員になることを希望する原田くんは、「大学を卒業したら山口市に帰ってきたいです。今でも遠征から帰ってくるとホッとします。」と話してくれました。

人に安らぎを与えられる人になり

たい

石川貴恵さん (仁保中学校3年生)

自然豊かな仁保地区には、表現力豊かな、かわいい作曲家がいます。仁保中学校に通う石川貴恵さんです。

仁保中学校では、「21世紀の仁保の村づくり」を





山口市議会議長 秋本邦彦

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

さて、新世紀の幕開けとなりました昨年は、IT革命により経済活動や生活様式が著しく変貌するなど、時代が大きな転換期にあることを目の当たりにした年でありました。

国においては、今後、雇用不安の払拭をはじめ、行政・社会の構造改革に不断の取組みを進めるとされておりますが、地方におきましては、本格的な分権時代の到来を迎え、地域の実情にあった個性的なまちづくりが、喫緊の課題となっております。

本市議会といたしましては、分権型社会を享受すべき市民の皆様の信頼を確保することが不可欠の課題であるとの認識のもと、議会運営の改革や政策立案機能の強化を進めてまいりたいと考えておりました。昨年、議会改革を目的とした「議会の地位と権限に関する協議会」を議会の総意で設置し、鋭意研究を進めてまいりました。

本年は、研究成果の具現化を課題の一つとして掲げ、誠心誠意、責務を遂行してまいり所存でございますので、皆様の力強いご指導、ご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

# 賀春



山口市長 佐内正治

新年あけましておめでとうございます。

新しい門出にあたり皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

高度情報化、少子・高齢化、地方分権の進展等を背景に、市民の皆様との協働によるまちづくりの重要性はますます高まっております。こうした中、昨年12月に、市民活動を支援する拠点施設として市民活動支援センター「さぼらんて」をオープンさせたところです。

市では、「第五次山口市総合計画」に基づき、県都山口にふさわしい、活力と個性ある中核都市の実現に向け鋭意取り組んでおり、本年を「明日の山口の礎を築き上げる年」と位置付け、総合計画の基本目標である「新しい自分と出会い、自分らしい生き方を実現できるまち」の実現を目指し、21世紀の基礎づくりとなる事業を進めてまいりたいと考えております。

今後とも、市民の皆様と手を携え新しい発想により、活力のある山口の創造に邁進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



「自然がそばにあると、気持ち落ち着きませんか。私もこの仁保の自然のように、相手に安らぎを与えられるような人になりたいです」音楽で自然を表現することができ石川さんなら、人に安らぎを与えられる産婦人科医の誕生も近いかもしれませんね。

テーマに生徒各自がそれぞれの課題に取り組み学習を行いました。石川さんが取り組んだのは、仁保の曲を作ることでした。題は「深山の響」。しかもオーケストラとの協奏曲というから、大人顔負けの実力の持ち主です。「仁保は昔、深山と呼ばれていたそうです。深い山というだけあって、仁保には自然がいっぱいです。そんな仁保の風景が見えるような曲、私の自然への思いが表れているような曲づくりをしました」と話す石川さん。「深山の響」は山口大学管弦楽団の協力を得て、ビデオに収録され、仁保中学校の文化祭で紹介されました。

そんな石川さんの将来の夢は、産婦人科医になることです。ただし、そこは音楽好きの石川さん。医者には医者でも、音楽療法士の資格を持った産婦人科医です。「人を助ける仕事がしたいんです。そのなかで自分の好きな音楽をいかしていければ」と話します。





## 自分にとって成功とは、あきらめずに努力し続けること

### にしむらたく 西村拓くん (山口中央高校2年生)



昨年6月、アメリカで、将来航空業界で活躍することを目指す高校生のための体験サマーキャンプ「エアロスペース・キャンプ2001」が開催され、日本から2人の高校生が参加しました。その内の一人、西村拓くんの夢は「国際線のパイロット」です。

彼がパイロットになろうと決めたのは中学2年のとき。きっかけは、「小さいころから海外旅行に行く機会が多く、日本以外の国をいろいろと体験しました。また、自然と飛行機に乗る回数も多く、そういったことの影響が大きいと思います」。

夢の実現に向けて、航空大学校や航空会社に問い合わせをしたり、パイロット養成の専門学校を見学に行ったりと努力を重ねていくうちに、前述のサマーキャンプを知り、厳しい選考をくぐりぬけて参加しました。「ホームステイの経験もあり、英会話には自信があったんですが、授業を聞き取る

のはとても難しかった。分かればもっと楽しめたのに」と少し残念そうです



アメリカで、エアロスペース・キャンプ2001に参加中の西村くん(右)

が、「授業以外のところでは、アメリカの学生たちといろいろな話でできました。彼らは飛行機についての専門用語などの知識がとても豊富でした。また、とにかく前向きに、気楽に取り組んでいる姿が印象的でした」。この貴重な経験は、西村くんにとって「やる気をおこさせる原動力。ゆるんだネジをしめなおす力を与えてくれるもの」になっています。

今年、受験生として大学入試に向けてがんばることになる西村くん。彼に夢を実現するための心構えを聞くと、「自分の夢はパイロットですが、パイロットになることが成功だとは思わないんです。いかにあきらめずにと努力し続けられるか、挫折せずに努力し続けられたら、それが成功だと思っています」と話してくれました。

## 人に温かさを伝えられる看護婦を目指して

### いけださちよ 池田幸代さん (山口高校3年生)

「きっかけは本当にささいなことなんです。手話を使うドラマにあがれて、ちよっとやってみたくなと思って始めたんですから」と山口市手話友の会に通う池田さんは笑って話します。その、「ちよっとやってみたい」からすでに4年が経過しました。「友達と励まし合いながら続けています。週1回の会の活動では、ろうあ者の方とのふれあいなど、学ぶことも楽しみも多いです。特に、ろうあ者の方からは、楽しく、強く、充実した生活を送る姿勢を学びました」。

そんな池田さんの夢は看護婦になることです。小学校6年生の時、入



院した彼女に優しく接してくれた看護婦をみて、「なんて温かい人たちなんだろう。私も人の役に立つ仕事、相手に人の温かみを伝えられる仕事をしたい」と思ったそうです。「それに、手話が使えぬ看護婦さんだったら、より多くの人とコミュニケーションがとれます」と池田さん。言葉の垣根を越えて患者さんと向き合える看護婦を目指します。

高校でも手話同好会に在籍する池田さん。文化祭では、紙芝居と手話で物語を伝えるなど、少しずつ活動を広げているようです。「何かを始め、何かを続けるって、すべて自分にプラスとなって跳ね返ってくることなんだと手話を通じて知りました。これからも手話に限らず、いろんなことにチャレンジしていきたいですね」と話してくれました。



紙芝居と手話で物語を伝える手話同好会のみなさん



映像でしか表現できないものをつくりたい

宇根郁恵さん (山口高校3年生)



山口情報芸術センター・プレイベントに、最年少で参加している宇根郁恵さん。将来の夢を聞くと「映画発祥の地フランスへの留学、いろいろな国を回り無声映画を創ること、現代アートを理解してもらえような映画を創ること」と次から次へと夢が出てくる彼女は、現在、受験勉強の傍ら、夢の実現に向けて、自主的に短編映画の制作

デッサンの勉強、プレイベントに参加しています。アートの世界でも、彼女がこだわるのは「映像」。「映像でしか表現できないものをつくりたい」と話します。

B型でマイペースという彼女は、自分の行っていることの理由をとかやく聞かれることを嫌います。「何かするの

に理由があるのだからか」と悩んだ彼女は、一人のアーティストに相談し、「やってみる



アートマネジメント隊に参加し、アーティストと企画を考える宇根さん(右から2番目)

うちにわかるかもしれない。わかることをやってもつまらない」という話を聞いて「何かをすることにコンセプト、理由はいらないのでは」と悩みをふつきります。「あっ!」と思える瞬間を映像にするのに理由はいりませんよね」と話します。

山口情報芸術センター・プレイベントに参加することについて「主観的になるけど、アートをやるのなら山口にいてもいろいろできるかも?」と思えました。いろいろなことを吸収するチャンスができてうれしい。もっといろいろな世代を巻き込んでやってほしい」と話します。

春からは、東京の大学へ現代アートを学ぶため進学を希望する宇根さんは、「東京では、いろいろな人脈を作ったり、自分の才能を試したい」一方で、「山口市は、わたしにとつて原点。東京に行っても、山口情報芸術センターのプレイベントには参加しますよ。センターが完成したら、そこで映像、映画の創作に利用したい」と笑顔で話してくれました。



昨年も大勢の人出で賑わったアートふる山口。舞台裏でイベントの企画・宣伝など、運営に大勢のスタッフがかわわっている中、高校生ボランティアとして参加した野田学園高校の生徒23人の姿がありました。「初日は雨だったけど、たくさんの方が来てくれてよかったです」とみなさんホッとした様子です。

初めて参加した生徒も多く、きっかけは「とにかくいろんなことを経験してみたい」という旺盛な好奇心からのようです。イベントの成功に向け、準備段階から大人と一緒にがんばったみなさんは、「僕らと同じ高校生や大人など、幅広い世代・分野の人たちと知り合うことができ

山口市のいいところをいつまでも...  
そしてもっと魅力的なまちに...

アートふる高校生ボランティア (野田学園高校)

て、とても楽しかったです」「できれば今年も参加して、もっとたくさんの人に楽しんでもらえるようなイベントの企画をしてみたいです」と話します。

また、みなさんに山口のまちについて聞いてみたところ、「アートふるに参加してみて、山口には、歴史ある街並みや緑いっぱい自然など、よいところがたくさんあることに気付きました。こうした環境をいつまでも残して、もっともっと魅力的なまちにしていきたいです」と話してくれました。



一の坂川周辺の地図を巨大な立体モニュメントで表現しました

ふれあいウォークラリーのチェックポイントで自作のクイズを出題するみなさん





昨年の夏、市内各地域の子どもの代表が集まり、身近な環境や子ども会活動について意見を出し合う「山口市子ども会議」が開催されました。会議では、子どもらしい意見が活発に出され、子どもたちは「町や人のためになることをギネス大会を通して楽しみながら行う」ことを会議の宣言として採択しました。吉敷地区代表で参加した千知松由希さんは、山口市子ども会育成連絡協議会40周年記念式典（12月2日）で小学生の代表として、その時感じた思いを次のように発表しました。

## 明るい山口にするために 千知松由希さん（良城小学校6年生）

わたしの住む吉敷地区は、とても子ども会活動のさかんな地区です。「交流」「ボランティア」「体験」など、さまざまな分野で子どもが参加し、楽しめます。今年の夏祭りでは「子どものお店」を開き、わたしは吉敷地区の子ども会活動は百点満点だと思っていました。



しかし、山口市子ども会議に出席し、そうではないということを知りました。ちがう地区の友達や、吉敷はしていなかった方法ですばらしい活動をしていました。そのことを聞いた時、わたしはふと思いました。同じ山口市に住んでいるのに、ちがう地区がしていたことも知らなかったなんて、何かへんだよなあ・と。

## 「今までのようにすべて大人まかせにする気はありません」

それからもう一つ、さらに大きな発見がありました。今まで「子どもが主役」として取り組んできた行事も、実は本当に子どもが主役にはなれていなかったということ。つまり、子どもが活躍してきたのはすべて本番で、それまでの過程は大人だったのです。今までは、このことを当たり前だと思っていましたが、そうではありませんでした。会議の中でこのことが分かった時、わたしの中に「今までそんなことにも気づかず大人にまかせてきたのか」というなげなさと、「これから、わたし達の力で作り上げられるものを探して、やってみよう」という闘志がわいてきました。

そして、どうやらその思いは子ども会議に出席したみんなも同じだった様。たくさん意見が出され、すばらしい「山口市子ども宣言」が出来上がりました。しかし、一つ問題点があります。例えば今回出来た子ども宣言にもとづいて、ギネス大会を開くつもりでしょう。プログラムや広告の表紙をいくら頑張っても作っても、それを印さしたり、山口市民のみなさんに配ったりすることは、子ども力ではできないのです。「子どもの力」とは言っても、子どもには必ず支えて下さる大人が必要なんです。もちろん、今までの様にすべて大人まかせにする気はありません。でも、何かボランティア活動をやろうと思った時、相談にのってくれる大人が、わたし達には必要です。それに、子どもと大人が協力できる町は、すごく美しい町だと思います。だから、これからもよろしく願います。

話は変わりますが、わたしやわたしの友達に手話

が大好きです。手話は知らないけど、料理が得意で自分の料理を人に食べてもらうのが夢だ、という人もいます。実は、わたしも将来は養護学校や小学校の特別学級の先生になりたいです。そこで、今後の子ども会活動では、ボランティアに取り組みたいです。耳の不自由な方に手話で歌をおくったり、知的障害をお持ちの方に手作りおむすびをプレゼントしたり、それだけでも、たくさんの方の心を暖めてあげられるのではないのでしょうか。

## 「三十年後に見る景色は今からわたし達が作り上げる山口市です。みなさんががっかりさせないよう、一生懸命頑張ります」

最後になりましたが、今回たくさんの方の体験をさせていただいたの感想、そして、子どもからみな様へのメッセージを読み上げます。

まず、これはわたしが子ども会議でたくさん友達を作った、たくさんの方の意見を聞いたからこうして言えることなのですが、今子どもであるわたしが大人になってなるもの。それは山口市の内閣総理大臣です。山口の首相になって、明るい山口を作るんです。そしてそのためには、友達をたくさん作って、いっぱい泣いていっぱい笑うこと。山口の大人の方々は優しいから、今の子どもにはそれができるんです。そうして広い心を持って山口を明るくすることが出来る人になって、立派な山口を作り上げます。みなさん、窓から外を見て下さい。これは今の山口市です。そして、三十年後にもう一度見て下さい。その時見る景色、それは今からわたしが作り上げる山口市です。みなさんががっかりさせないよう、一生懸命頑張ります。みなさんががっかりさせないよう、たまにはかげから出てきて、応援して下さいね。



# 今年 午 年

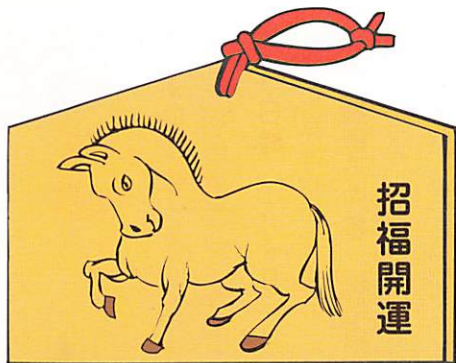
う  
ま



「馬が合う」「馬には乗ってみよ、人には添うてみよ」「馬の背を分ける」など、馬に関することわざや故事はたくさんあります。

馬は古くから家畜とされ、人や荷物を運んだり、物をひっぱったり、農耕を助けたり、戦場で働いたり、いろいろな場面で大きな役割を果たしてきました。現在では、主に競争用・乗用に飼育されています。

その国や地域に大昔からいる馬を「在来馬」と呼びますが、日本では現在、北海道和種馬（どさんこ）、木曾馬（長野県）、御崎馬（宮崎県）、対州馬（長崎県）など計8種類がいます。これらの馬の祖先が、いつごろ、どういうルートで日本に渡ってきたのかは、まだはっきり分かっていません。しかし、縄



招福開運

文・弥生時代には、役割がはっきりしないながら、馬がすでに家畜のように利用されていたようです。古墳時代の遺跡からは馬の埴輪（はにわ）も出土しています。

また、馬はしばしば古典にも登場します。最古の歌集とい

われる「万葉集」には、馬を詠んだ歌が約80首あり、馬が貴重であったことが読み取れます。

馬と聞くと競馬を連想される方も多いと思いますが、馬同士を走らせ競わせる行事は、走馬（はしりうま）などといって、奈良時代から行われていました。特に端午の節句（5月5日）の競馬は恒例で、時の天皇が臨観したとの記録が残っています。

現代では、競馬といえばサラブレッドです。この馬は、より速く走るようにと、品種改良が重ねられてきました。たてがみをなびかせて走るその姿は、走る芸術品といわれています。

一方で「馬の耳に念仏」「馬耳東風」と、無反応、役立たずの代表のようにいわれる馬の耳。これは誤解と考えていいようです。馬の耳は、前方にある物の距離を測るなど、とても優れた機能を持っています。

皆さんになじみが深いものとして、絵馬があります。その昔、神に願い事を頼むときに馬を献納しました。しかし、馬を納めることのできない人がその代わりに馬の絵を描いたり、馬の形に作った木片を納めたりしたことが、絵馬の始まりだといわれています。

皆さんも受験などで、絵馬に願いを託されたことがあると思います。今年もまた、神社にはたくさん絵馬が献納されることでしょう。

## 山口のんた情報 (CATV)

午前7時50分（月・木・日）、午後零時45分（水・土）、午後6時30分（火・金）、午後10時30分（月・木・日）から20分間放送。

- 1月1日～15日 新春座談会「コミュニティの形成とまちづくり」
- 1月16日～31日「南部地区紹介⑥鑄銭司地区」

## 山口のんた情報特別版

- 1月7日～20日 午後6時40分～7時10分 山口情報芸術センター・プレイベントシンポジウム「芸術文化と都市の未来を考える」



基調講演を行うG・シュトッカー氏（リンツ市）

ご覧ください  
山口市の  
広報番組

1月の放送  
予定です

## わたしたちのまち山口 (TYS)

毎週日曜日、午前11時40分から放送。

- 1月6日・13日 「七草で創作料理」
- 1月20日・27日 山口市市民活動支援センター『さばらんて』オープン



12月1日に、道場門前商店街にオープンした山口市市民活動支援センター「さばらんて」

## やまくちしま専科 (YAB)

毎週水曜日、午後5時15分頃から「とれたてテレビYAB」の1コーナーで放送。

- 1月9日 「栗林和彦のふるさと発見」





山口市市民活動支援センター

## 「さぼらんて」 かぼらんて 掲示板

昨年12月1日、道場門前商店街に山口市市民活動支援センター「さぼらんて」がオープンしました。ここでは、市民活動に関する情報を収集・発信するなど、市民活動をサポートする施設です。

### 市民連絡会議に参加しませんか？

「さぼらんて」は、市民の皆さんが利用しやすい施設を目指しています。そこで、毎月1回「市民連絡会議」を開催し、センターのよりよい活用方法について、みなさんの意見を聞きながら一緒に考えていきます。自由参加ですので気軽にお越しください。

- ◇日時 1月11日(金)
- 【昼の部】10:30~12:00 (託児あり 予約制)
- 【夜の部】18:30~20:00 (託児なし)
- ◇場所 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」(道場門前一丁目2-19)
- ◇問い合わせ ☎901-1166 FAX901-1165  
Eメールsaporant@c-able.ne.jp

### 1月のリサイクルアイデア講座 (午前10時~正午)

和服のリフォーム	8(火) 22(火)
パッチワーク(中級)	9(水) 23(水)
さき織り	10(木) 17(木) 24(木) 31(木)
余り布で作るコサージュ	10(木) 24(木)
ネクタイでベスト、小物作り	11(金) 18(金) 25(金)
毛糸のリサイクル	11(金) 25(金)
牛乳パックでおひな様作り	12(土) 26(土)
パッチワーク(初級)	16(水) 19(土)
洋服のリフォーム	17(木) 31(木)
布遊び	19(土)
あんでるせん手芸	19(土)
カントリードール	23(水) 30(水)
トールペインティング	30(水)

※パッチワーク初級 19(土)は、午後1時~3時  
※カントリードール・トールペインティングは、午前9時30分~正午

### おもちゃの病院

- ◇日時 1月13日(日) 午前10時~正午
- ※次回のフリーマーケットは3月10日(日)
- ◇問い合わせ 山口市リサイクルプラザ  
☎927-7122 FAX 927-7133

エコパークやまぐち  
かわらばん



新年あけましておめでとございます。今年は午年です。みなさんに幸運が駆け巡ってくるようお祈り申し上げます。▼子どもたちは、私たちが思っている以上にしっかりと考えた方をもっていることに驚かされました。私たち大人は、彼らの夢や思いが実現できるようにしっかりとサポートしていかなければいけないと痛感しています。▼子どもたちが、「山口市でも何かやれる」「このまちが好き」と思えるような魅力的なまちをつくっていきましょう。(M・K)

### 編集後記



表紙写真説明  
親子でつくる「たごぶくろ教室」  
市児童文化センターで行われた、たごぶくろ教室には、9家族20人が参加し、2種類のたごぶくろを作りました。さつそく、たごあげをおこない、自分たちの作ったたごぶくろが高くあがるのを見て、歓声を上げていました。

## お知らせ



### 平成14年 山口市消防出初式

◇日時 1月6日(日) 午前10時~  
午後零時30分

◇場所・内容 山口南総合センター  
ホール：式典/山口南総合センター  
運動広場：検閲および観閲行進、公開訓練、一斉放水 ※当日は温かい豚汁(無料)を用意しています。

◇問い合わせ 市総務課消防担当  
(☎932-2202)

### 高齢者などのインフルエンザ 予防接種

インフルエンザ予防接種の一部公費負担による接種期間は1月31日(木)までとなっています。まだ受けていない方は接種期間内に早めに接種しましょう。なお、2月以降に接種されると、料金は全額自己負担となりますのでご注意ください。

- ◇接種期間 1月31日(木)まで
- ◇対象者 ①65歳以上の高齢者  
②60歳以上65歳未満であつて、心臓、じん臓もしくは呼吸器に重い病氣

のある方またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害のある方(※診断書または身体障害者手帳の写しが必要です)

- ◇接種回数 1回
- ◇自己負担金 1000円(生活保護の人は無料) ※診断書にかかる料金は別途自己負担です。
- ◇接種場所 指定医療機関(市報11月15日号8ページおよび12月15日号健康コーナーをご覧ください。)
- ※事前に指定医療機関に電話でお問い合わせください。
- ◇問い合わせ 市保健センター(☎921-2666)